平成26年度里親・里子支援サークル事業報告

1.はじめに　現在、様々な事情で親が育てることができない子供たちは、社会的養護と呼ばれるシステムで育てられている。社会的養護は、大きく分けて里親等の家庭的養護と養護施設などの施設養護に分けることができる。厚生労働省は家庭的養護の長所を理解し、里親委託ガイドラインを作成し優先的に里親へ子どもたちを措置している。

しかし、平成27年3月に全国里親会から発刊された「里親リクルートに関する調査報告書」を見ると、里親登録の増加を目指して児童相談所・民間NPO等が努力を続けているが、里親の数はまだまだ十分な数とはなっていないことがわかる。そしてそこには、様々な課題が立ちふさがっている。

　　美作地区の里親数も、例外なく近年減少傾向にあったが、美作地区里親会の努力で改善しつつある。全国的に里親のリクルートと支援が大きな課題となっており、児童養護施設や乳児院に里親支援専門相談員が配置されているが、県下では2名に留まっている。またNPO等の里親支援機関ができつつあるが、美作地区では十分機能を果たしているとは言い難い。

　　そこで、里親・里子の支援を目的として「美作大学里親・里子支援サークル」（里親・里子サポーターズ）を立ち上げ、美作地区里親会の支援を行ってきた。学生の里親支援組織は全国的にも珍しく、今後の里親支援活動のモデルとなるものと考えている。以下に1年間の活動を振り返り、活動の成果と課題を述べる。

2.活動対象者・支援者

（1）里親　15世帯

（2）里子20名前後（措置の状況により異なる）

（3）学生　13名

（4）支援機関　津山児童相談所　里親支援専門相談員

3.具体的活動

（1）里親・里子支援サークル定期会議　（毎月最終木曜日16：00～17：30）

　　　里親、施設職員、学生で活動の企画運営を検討する。（美作大学）

（2）美作地区里親会の行事の支援

　　①6月　里親サロン旅行　「蒜山　搾乳体験とジンギスカン」

　　　　・レクリエーション　　里親15名　里子13名　学生12名

②10月　里親会全国大会（岡山）運営の支援

　　　　・準備　・託児

③12月　クリスマスプレゼント配布

　　　　・クリスマスカード作り　・クッキー作り

④1月　里親心得座談会の支援

　　　　・準備　・託児

⑤2月　里親サロン一泊旅行　（香川・愛媛方面）

里親15名　里子10名　学生4名

　　　　・レクリエーション　・託児　・付き添い

（3）サークル独自行事

　　①8月　里親・里子交流キャンプ

　　　　・久米南町美しい森で岡山県下の里親・里子を対象にキャンプを計画。

（台風で中止）　里親16名　里子15名　学生15名

　　②10月　大学祭招待

　　　　・大学祭（白梅祭）に里親・里子さんを招待

　　③12月　児童養護施設の訪問

　　　　・クリスマスケーキとクリスマスカードを持って児童養護施設を訪問

（4）その他

　①研修会

　　　　・社会的養護や子どもに関する研修を随時行う

　　　　　10月「児童養護施設の子ども達の就労を支援する」

　　　　　　一般社団法人ひだまり理事長　中嶋　進一氏

4.活動の成果

（1）活動の成果

　児童相談所職員、里親支援専門相談員とともに1年間にわたり美作地区里親会の活動を支援してきた。その成果としては以下のことが考えられる。

①里親・里子にとって

・学生とのつながりや信頼関係を築けた

　・里親のレスパイトの時間ができた

・里親会の行事を運営する負担が少なくなった

・里親のリクルート活動がやりやすくなった

・里親登録数の増加　5世帯増加（33％増加）

②学生にとって

・実際に子どもたちに接する経験ができた

・活動を実施するうえで責任感が身についた

・他者に対する思いやりが持てた

・知識不足から学習意欲の向上があった

・活動のやりがいを体験することができた

・社会人としての自覚に目覚めた

・支援活動の結果として里親会の次年度の活動業務を委託された

③地域のネットワーク

・児童相談所とのつながりがより太くなった

　・児童養護施設の里親支援専門相談員との連携が取れるようになった

　・岡山県下の他の地区の里親会とも連携ができた

　・児童家庭支援センターとのつながりができた

　・里親・里子支援団体として認知されてきた

（2）里親・里子支援における課題

①里親・里子の個別性に配慮した支援

②制度や里子の抱える問題に関して知識不足

③活動費用の問題

④里親家庭間の距離が離れている

⑤個人情報の守秘義務が厳しい

5.まとめ

これまで短期のボランテイアとして協力してきた里親会との活動を基に、今年度より里親・里子支援サークルを立ち上げ、組織的支援活動を実施した。また、美作地区里親会の事務局の補助的役割も担うこととなり、より大きな責任と期待を感じている。そのため、課題に優先順位をつけて取り組み、里親・里子への支援の質と量を高めていきたい。

次年度も、里親制度の認知の向上を目指し、里親登録者の数を増やすため、里親・里子への応援を継続して行う。また、里親・里子のみなさんの困り感が少なくなり、幸せをより多く感じられるような毎日が送れることを願い、支援を継続して行く。